

学会等発表

千葉市におけるサポウイルス感染集団発生事例について

瀬野智史、清水幸恵、神谷美里、水村綾乃、秋葉容子、
近藤文、荒井健二、横井一、前嶋寿（環境保健研究所）

令和 5 年度地方衛生研究所全国協議会第 37 回関東甲信
静ウイルス研究部会

要旨：千葉市管内では令和 4 年度に保育所等の乳幼児施設でサポウイルス (SaV) による感染性胃腸炎の集団発生事例が多発した。2022 年 4 月から 2023 年 3 月の期間に発生した、ヒト-ヒト伝播（疑い）による感染性胃腸炎の集団発生事例 41 事例について、各事例の発症者 3～5 名に対しリアルタイム RT-PCR 法によるウイルス遺伝子検査を実施した。さらに、SaV が検出された検体のうち各事例 1～2 検体について、1245Rfwd/SV-R2 プライマーによる PCR 産物を用いてダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定し、近隣接合法による系統樹解析を実施した。

検査を実施した 41 事例のうち、SaV が検出された事例は 17 事例であった。17 事例の月別発生状況は、2022 年 4 月に 1 事例、5 月に 11 事例、12 月に 2 事例、2023 年 1 月に 2 事例、3 月に 1 事例であった。

SaV の遺伝子型は 10 事例が GI.1、4 事例が GII.3、3 事例が型別不明であった。4、5 月に発生した 12 事例のうち 10 事例が GI.1、12 月、1 月及び 3 月に発生した 5 事例のうち 3 事例が GII.3 であった。このことから保育所等を中心とした令和 4 年度の感染性胃腸炎の集団発生は 4、5 月については GI.1 の流行、12 月～3 月については GII.3 の流行によることが判明した。

当市において、例年 SaV が検出される集団感染事例は全体の 0～2 割程度であるが、令和 4 年度は 4 割を超えており非常に多い状況であった。また、令和 4 年度の検出状況は全国とほぼ同様の傾向であったことが判明した。SaV の流行状況を把握するためには、分子疫学的解析を行うことが有用であり、今後も遺伝子解析を行い SaV の発生動向に注視し、適切な感染対策を行っていくことが重要であると考えられる。

学会等発表

千葉市の水域における有機フッ素化合物調査

石渡 慶秀（環境保健研究所）

令和5年度全国環境研協議会関東甲信静支部

水質専門部会

要旨：2008年度から市内主要河川（鹿島川、葭川及び花見川）でPFASの調査を実施しており、2022年度も引き続き夏季及び冬季に市内10地点の調査を行った。また、結果を要監視項目の指針値（50ng/L）と比較した。

測定方法は、試料1000mLを採取しリン酸(1+4)でpH3に調整後、内標準物質を添加した。これを固相カートリッジに通液し、洗浄・乾燥させた後、1%アンモニア／メタノール溶液5mLで溶出させた。さらに、窒素吹付けにより0.2mLまで濃縮した後、90%メタノール水溶液を加え1mLとし、試験溶液とした。定量にはLC/MS/MSを用いた。

調査結果について、PFOAの濃度は、六方上で低く六方で最高値かつ例年同様の高濃度（夏季30ng/L）となり、下流へ行くに従って濃度が低下することを確認した。

PFOSの濃度は、六方及び六方上で低く、事業所付近で最高値（冬季48ng/L）になり、下流へ行くに従って濃度が低下することを確認した。PFHxSは、近年同様の濃度が検出され、PFOS同様に下流へ行くに従い低下することが確認できた。PFOS及びPFOAの合算値は、六方から増加し暗渠で最高濃度（冬季91ng/L）となった。